

目次	CEOメッセージ	CSOメッセージ	カーボンニュートラル/ 新型コロナウイルスへの対応	取締役会議長 メッセージ	日産のサステナビリティ	日産のSDGsへの貢献	ルノー・日産自動車・ 三菱自動車のアライアンス
環境	社会性	ガバナンス	ESGデータ集	編集方針	TCFD対照表	GRI内容索引	投資家向け索引

GRI102-14 GRI102-15 GRI102-23 GRI102-28

木村取締役会議長メッセージ

日産自動車は、持続的な成長と安定的な収益の確保を目指す事業構造改革「NISSAN NEXT」の達成に向けて大きな節目の年度を迎えています。この改革を着実に遂行し、日産が一日も早く社会からの信頼を回復するためにも、引き続き監督機能としての取締役会の透明性と公平性への期待が極めて大きいと考えています。

議長としての私の役割は取締役会を活性化させ、生産性の高い建設的な議論を行うことです。この実践には、執行側と監督側が、お互いを尊重した上で刺激し合うといった信頼と緊張のバランスが求められます。執行側が、株主から日産の従業員まで幅広いステークホルダー全員の期待を背負っているという覚悟で事業を遂行できるように、取締役会は、適切なプロセスで経営が行われるか

をチェックし、執行側を見守っています。

2020年度、指名委員会では、代表執行役の選定議案・取締役選任議案・社長兼最高経営責任者の後継者育成計画の3点について審議しました。報酬委員会では、取締役および執行役の報酬などに係る決定に関



する方針に基づき、個人別の報酬などの内容を決定しています。また、新たな株式報酬制度（譲渡制限付株式ユニット）を導入し、役員としての中長期的な業績への貢献やその意欲の促進、そして不正・違法行為があった際の会社としての返還請求、これらを可能とする仕組みを取り入れました。監査委員会では、取締役および執行役の職務執行についての監査の一環として、リスク管理やサイバーセキュリティを含む内部統制システムの構築・運用状況に関する個別報告を受けています。さらに、取締役会の実効性については、2021年3月に質問票形式による取締役の自己評価を実施し、2021年5月に取締役会へ報告されました。監査委員会による監査を経て、取締役会の実効性は確保されていることが確認されています。

日産は他の会社に先駆けて電気自動車（EV）の量産に取り組んできました。そして2021年1月には、2050年までに事業活動を含むクルマのライフサイクル全体におけるカーボンニュートラルを実現する新たな目標を発表しました。自動車業界のみならず、世界全体が大きな変革期を迎える中で日産がどの道を進んでいくのか、その方向を示すことが非常に大切になります。私自身もこの課題に大きな関心を持っており、今後、独立社外取締役を含めた取締役会の議論で、企業価値向上のための長期的な経営の在り方をテーマに採り上げたいと思っています。日産が成長軌道に乗りはじめた今、引き続き社会と会社の持続的発展、即ちサステナビリティの推進により一層貢献できるよう、取締役会の責務を果たしてまいります。

木村 康

日産自動車株式会社 取締役会議長